

ここを出発し、音江川を過ぎて小山に登り、雑木林やシイベヌカルという小川の断崖の上を通りました。ここからは、蛇のように曲がりくねっている石狩川の川筋が良く見えます。ここを舟で行けば約5.5キロの行程になるので、山を越えることにしました。

タムニ、ケナシバオマナイ、ピラノシケヲマナイ、キヤチャウシナイ、エクトシユマ、タツカシユマという小川と、約3キロの平野を過ぎて、川幅13メートルほどの内大部川に出ました。大木を倒して橋にして川を渡り、今夜は近くにあるホロシユマチセという大岩崖に泊まる予定でしたが、根雪が非常に深く埋もれてしまつて見つけられなかったので、2キロほど歩いてヲランナイという小川の岸で野宿をしました。

一夜をと 頼ミし岩は 埋もれて

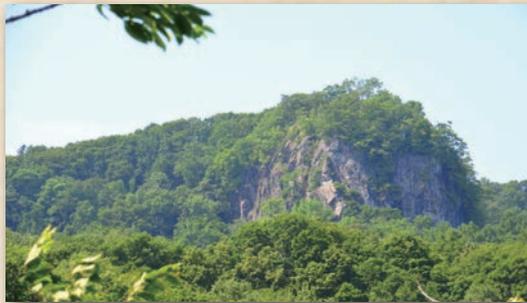
はてなき野辺に 仮寝しにけり

(一夜を過ごそうと頼みにしていた岩屋は雪に埋もれてしまつていたので  
はてない野原を仮の宿としました)

2月28日

真冬のような猛烈な風に雪が舞い、それはまるで本州で砂嵐が吹き荒れるのと同じような状態です。磁石の針を東北東に定めて2キロほど歩き、トドマツが生い茂る山に登りました。その山の険しさといったら、手のひらを天に向かつて立てているようで、一步踏み外せば、物凄く深い谷に落ちてしまう非常に危険な場所です。それを1.8キロほど進むと、切り立った崖にあり、アイヌの人々が神様の住む場所だという神居古潭に出ました。

以前に訪れた際に見た珍しい形の岩や石は、みな雪に埋もれて益々あやしさを増し、山々の木々に降り積もつた雪



### 神居古潭

「カムイコタン」はアイヌ語の「神の住む場所」という意味。